

2015年9月実績概要（メモ）

（2015. 10. 15）

主要石化製品の生産は、エチレンを含む18品目のうち16品目が前年を上回る生産。

1. 生産動向

イ) エチレン 573,900トン

前月比 ▲ 3.6% (▲ 21,600トン)

前年同月比 +16.6% (+ 81,700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	—
定修要因等	—	+22.0%
能力増減	—	▲ 5.7%
稼働率変動	▲ 0.4%	+ 0.3%
生産増減率	▲ 3.6%	+ 16.6%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月94.2%→当月93.8%←前年同月93.6%

定修プラント：前月なし→当月なし←前年同月2社2プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、稼働日数減と定修規模差などから、HD、PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、AN、SBR、ベンゼン、トルエンなどの13品目でマイナス。LD、PS、BRなどの4品目は主に稼働率要因、定修規模差からプラスとなった。

前年比では、稼働率要因や定修規模差等からLD、HD、PP、PS、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、AN、BR、トルエン、キシレンなどの15品目がプラス。MMAモノマー、EOの2品目のみがマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、稼働日数が減少したが、稼働率要因等からLD、PSはプラスとなった。HD、PPは主に日数減からマイナスとなった。

前年比では、稼働率要因と定修規模差等からLD、HD、PP、PSの4樹脂で揃ってプラスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、夏季休暇があった前月に対して当月は営業日数の増加もあり、LD、HD、PP、PSで大幅な増加となった。

前年比では、引き続き輸入品の減少が続いおり、これに伴い国産品の出荷が増加している。PEではフィルム分野の出荷増加しLDはプラス、HDはほぼ前年並みの出荷となった。PPはフィルム分野や繊維分野の出荷が増加し、前年を上回った。一方、PSは前年の出荷がやや高めであったこともあり、特に包装分野、雑貨分野の出荷が減少し当月はマイナスとなった。

ハ) 輸出

原料動向、為替相場が比較的安定して推移したこともあり、前月比ではLD、HD、PSでプラスとなった。前年比ではLD、PSでプラスとなったが、HD、PPではマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PPは減少し、HD、PSは増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLDは横ばい、HD、PP、PSは上昇した。在庫水準としては、LD、HD、PSはやや高め、PPはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		8月末	9月末
LD	▲ 9,200	2.8	2.8
HD	+ 3,600	2.6	2.8
PP	▲ 1,200	2.6	2.8
PS	+ 8,600	1.3	1.5

以上